

Erythropoietin Resistance Index and the All-Cause Mortality of Chronic Hemodialysis Patients

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岡崎, 真之 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/31329

様式 (6)

学 位 審 査

学 位 番 号	乙 第 2884 号	氏 名	岡崎 真之
審 査 委 員 会	主 査 教 授	田中 淳司	
論文審査の要旨（400 字以内） 岡崎真之氏は赤血球造血刺激因子製剤（ESA）抵抗性と生命予後の関連を 6 カ月以上の血液透析療法を受けている 248 名の患者を対象とした前向き研究で解析した。エリスロポエチン抵抗指数（ERI）：週あたりの ESA 使用量[IU]/(週平均体重[kg]×Hb[g/dl]) が 3.5(2.0-5.0)を低値群、7.2(5.1-9.9)を中間値群、14.8(10.0-33.7)を高値群に分類した。2 年間の観察期間の間に 33 人が死亡した。単変量 Cox ハザード解析で年齢、血清アルブミン値、血清 CRP 値、ERI 値が総死亡率の独立した危険因子と判断された。また ERI 低値群を基準に ERI 中間値群、高値群の総死亡率の比較を行ったところ、ERI 高値群は ERI 低値群に比べ死亡率が高いことが確認された。ESA 抵抗性には慢性的な低栄養や炎症の存在が関与していることが予想され、ERI 高値は何らかの疾患の合併や高度の炎症の存在を示唆するものと考えられた。定期的に ERI をモニターすることで炎症の存在や栄養状態の低下を発見する手掛かりとなる可能性があると考えられた。 本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に学務部医学部大学院課へご提出下さい。（本学学会雑誌に公表）【学校教育法学位規則第 8 条】			